昇菊と昇之助

花菱生

――生ひ立ち――東京と大阪の住所――本名と年齢――幼時の稽古――朝八時より夜九時まで――其の師匠――初めて床に上る――得意の語り物――半年は修業に歸る――北國行――

目下東京の娘義太夫界の人氣者を云へば先づ第一に指を二昇に屈せざるを得ない。昇之助の義太夫は、其の語り口の巧者なこと、工夫の多いこと、殊に藝に對する熱心な態度に至つては、斯道に對して多少の鑑識を有するもの丶等しく未來の大成を信じて疑はざる所であらう。昇菊の三絃また其の撥呼えの妙なことに於いて優に一家を成さんとして居る。兎に角二昇の今日あるものは、其の藝に對する忠實な研究によつて與へられた賜物と云ふべく、余は其の經歷と苦心とに於いて、大に聞くべきものあるべきを思つて、二昇を築地の寓に訪うて聞き得たる實話の大要は次の如くである。

態々御訊ね下さいまして誠にお氣の毒さまで御座

います。何も別に申し上る程のお話も御座いません。まだ姉妹とも年が若いので御座いますから、今が眞當の修業中で、まあ此の後出來る丈け勉强致して、皆さまの御愛顧に酬いる積で居るので御座います。生て御座いますか。それは此處に一寸書付に致して置きましたから、お覽下さいまし。

大阪市西區靭上通り貳丁目靭館主貴谷菊治郎
長女　昇菊事　キタ

明治拾九年十二月廿三日生（本年廿二歲）

二女　昇之助事　ヨネ

仝廿二年十一月八日生（本年十九歲）

この通りて御座いますが、只今は、
京橋區築地貳丁目拾六番地
に住つて居るので御座いますが、大阪の方では、
大阪市東區北久寶寺町一丁目百四十九番邸
に居ますので御座います。

左樣て御座います、昇之助の稽古を初めましたの

は、丁度九歳の折で、姉妹一所にお師匠さんの處へ通ひましたが、お師匠さんと申しましても大抵少くとも日に十所位は通つて居ましたものですから、中々暇な時などは少も御座いませんので、先づ朝は七時八時頃から出掛けまして、夜は八時九時頃までも敎はると云ふ風で御座いました。其に夫々お師匠さんによつて、幾らか語り口も違つて居ますし、皆夫々に十八番のものが御座いまして、何の語物は何のお師匠さんが一番巧いと云ふものがありますから、夫々其のお師匠さんに就いて敎えて戴きました。それから三味線の方も御存じの通り、偉い太夫さんになりますと、皆三絃が極つて居ますので、例へば東京の朝太夫さんの三絃には松太郎さんと云つた風で御座いますから、語り物と三絃とは姉妹で夫々對のお師匠さんに習ひまーたので、語り物は大阪で修行した太夫さんに三絃は名古屋の師匠さんに敎はつた方がなると云ふやうなのと違ひまして、よく二人の呼吸がしつくり合ひまして誠に都合が

昇菊と昇之助

宜しう御坐います。それからお師匠さんは只大阪ばかりではなく、遠方に在つしやる方、例へば今は故人となられましたが、神戸の勢見大夫さんなどの所へも參りましたので、これは滊車に乘つて通つたので御坐います。斯う云ふ風で御坐いましたから、身躰には些の暇も御坐いませんし、其に小兒のことては御坐いましたし、夜歸つて參ります身躰が萎頓として最う何をすることも出來ない位で御坐いました。併し姉妹とも非常に好きな道でありますから、一生懸命になつて修業いたしましたが、一躰私どもが方々のお師匠さんに就いて、語り物なり三絃なりを修業することが出來ましたのは、一つは父が色々の傳手を持つて居ましたので、何事も都合よく、當代て一と云はれるやうな偉い方に直々に敎えて頂くことが出來ましたので、父も私ども二人の爲めには大層力を入れて呉れまして、色々側から氣を注けて呉れたり、勵まして呉れたりしましたお陰て御坐います。前にも申しました通りて御坐いますから、無論大阪に居ますうちは席へ出る暇は御坐いませんて、席へ出ましたのは東京が始めてゞ御坐ります。

左樣で御坐います、澤山のお師匠さんに敎へて頂きましたので、一々申し上ますと大變て御坐いますから、父が心覺えに書き留めておいたものをお目にかけることゝ致しませう。此は語り物と三絃と兩方のお師匠さんを一所に記して御坐いますから、何卒其のお積りて御覽を願ひます。

先代豐筑時太夫故人　豐澤三平
竹本勢見太夫故人　豐澤猿糸
竹本津太夫　竹本伊達太夫
鶴澤友松　竹本春子太夫
豐澤新左衛門　竹本文太夫
鶴澤勝鳳　竹本綾瀨太夫（相生太夫改）
竹澤彌七　鶴澤重太郎
豐澤富助　竹本鏡太夫

鶴澤寛之助　豐澤龍甫
竹本越路太夫　野澤吉兵衛
竹本彌太夫（故人）　竹本長子太夫
豐澤廣助　野澤市治郎

此等のお師匠さんに就いて習ひまして淨瑠理の數は、左樣、判然とは申されませんが、先づ大凡の處百段以上も御座いませうか。それで初めて東京へ參ります前大阪での修業は四年足らず先づ三年ばかりて御座いますが、先刻申し上げました通り、澤山のお師匠さんに就いて、朝から晩まで淨瑠理の稽古ばかり致して居たので御座いますから、僅か三年とは申し乍ら、實際の時間は他の方の七八年にも當るだらうと存じます。それから御存じの通り東京へ參りましてからも、半歲は大阪へ歸つて稽古致しますので御座います。兎に角私どもも好の道では御座いますし、まだ年も若う御座いますから、是非善いお師匠さんに就いて、出來る丈藝を磨いて見たいと思つて居るので御座います。

東京へ參りましたのは、昇之助が十二歲の年で、御存じの茅場町の宮松亭、彼處へ出ましたのが初めて御座います。それから御愛顧さまの御引立を蒙りまして、先年神田の小川亭へ七ヶ月間續いて出ましたときなど、毎晩御客さまの數が平均三百卅七人と申しますことで、毎晩お客止めと云ふ景氣で御座いましたが、これは全く御愛顧さま方のお引立と御同情によることゝ父も共々に有り難く存じて居ります。今年は北國の方へ參る筈になつて居ますが、此は前々から幾度も彼方の御愛顧さまからお話が御座いましたが、何分東京の方が急がしくて、失禮致して居りましたので、此の度は是非ともとのお話で御座いますから、都合いたしまして參ることとなつたので御座います。

得意の語り物で御座いますか、私ども風情の未熟者に得意なものなどある筈は御座いませんが、お客

さまの方で御愛顧にして頂くものや、自分で兎に角一生懸命稽古したものを申し上げて見ますれば、

一、お俊傳兵衛堀川の段（猿廻し）
一、朝顔日記宿屋の段
一、伊賀越沼津の段
一、繪本太功記（尼ヶ崎の段）
一、全八ッ目岡崎の段
一、三勝酒屋の段
一、忠臣藏四段目
一、伽羅先代萩（政岡忠義の段）
一、全　六段目
一、小春治兵衛紙屋の段
一、全　九段目
一、全　茶屋の段
一、岸姫松三段目
一、御所櫻三段目
一、日吉丸駒城山城中
一、卅三間堂棟木由來（平太郎住家）
一、梅川忠兵衛新町の段
一、菅原二段目道明寺の段
一、全　新口村の段
一、全　四段目寺子屋の段
一、本朝廿四孝四段目
一、お夏清十郎湊町の段
一、揚巻助六大文字屋の段
一、おつま八郎兵衛鰻谷の段
一、攝州合邦ケ辻
一、和田合戰三段目（市若丸初陣の段）
一、傾城阿波鳴戸（十郎兵衛住家の段）
一、伊勢音頭油家の段

一、宿無團七時雨傘（岩井風呂）
一、觀音靈現記（靈阪寺の段）
一、新淨瑠璃櫻時雨（三郎兵衛住家の段）
一、日露戰爭（梅原住家の段）

外にも御座いませうが、那樣に申し上るのも何て御座いますから、此で御免を蒙ります。折角お出下さいましたのに、誠に下らんお話してお氣の毒さまで御座いました。

（完）

市川男寅

市川女寅

男寅の本名は荒川清と申します、赤子の時分から至つて達者でした、育てますには誠に世話の燒けない方で御座いました、これはさたないお話ですけれ共、ミルクを飲んで居ります頃にも、只の一度も大便でひつきをよごさなかつた事などは、先づ〳〵一寸珍